

子ども学部主要科目のねらい、特色、内容

子ども学基礎演習A, B

【ねらい】

子ども学部で学ぶ際のガイダンス的な役割を果たす科目で、(1) 子ども学とは何か、(2) 子ども学が対象とする 問題群の把握、(3) それらを研究するにはどのような方法があるのか、(4) 自分の現在の問題関心は何か、(5) 将来子ども学を自分の生活の中でどのように生かすか、といったことを探求する。

【特色】

子ども学に対する基礎的知識を学び、学部で開設する授業に対する興味関心を高め、4年間の充実した学生生活の一助としている。

【内容】

初年次教育（授業を受ける事前準備と復習など、レポートの書き方、文献検索の方法、引用の規則、研究倫理）をすると同時に、子ども学の構成要素と研究方法の理解、子ども問題に取り組む際に求められる基礎的な事項、子どもに関する機関や施設の紹介などを行い、子ども学とは何かを考える導入とする。

子ども（幼児）理解の基礎A, B

【ねらい】

子どもを理解し、適切な援助をすすめるために、子どもの発達や学びとその過程で生じる様々なつまずきの要因を把握するための原理や方法について理解を深め考える。

【特色】

特定のテーマを取り上げながら、それに関するデータや資料などから事項を客観的に考察する目を養うよう努める。具体的な子ども理解の方法について理解する。

【内容】

子ども理解の重要性について理解するとともに、教師の援助のあり方と子ども理解の関係について考える。また、社会の変化の下での、現代の子どもの変容について理解し、あわせて大人たちの子ども観の特徴や保護者と教師のかかわりについても考究する。

子ども研究法A, B

【ねらい】

課題研究（卒業論文）に向けて、子どもに関する研究方法や研究課題、研究倫理についての理解を深め、研究の完成の一助になるように設定された科目である。

【特色】

複数の教員が各々の研究の手法に従い、それを解説していく。研究内容に適した手法があることなどについて事例を説明しながら指導していく。

【内容】

子どもの問題について、歴史研究や文献調査、量的調査・質的調査、フィールドワーク的方法を用いた研究への理解を深め、研究倫理とは具体的にどういうことかについても論じる。設定された条件の中で自分の研究テーマを設定し、研究倫理に則って調査・研究を進める。

キャリア形成(子ども領域) A, B

【ねらい】

前半は職業意識の確立と進路選択を目的に、保育職や教育職、一般企業、大学院等についての説明とその進路を選ぶ際の必要になる事項を詳細な解説とともに理解させる。後半は、各自が選択した進路ごとにコース別（保育職コース、教育職コース、一般就職コース、進学コース、その他）にキャリア形成のための指導を行う。

【特色】

それぞれの専門の観点から教員がその職域に関する高い識見に基づいた解説を加える。

【内容】

進路の説明、保育職とは何か、教育職とは何か、一般就職とは何か、進学について、その他の進路について、自己分析、必要資格について、履歴書の書き方、企業研究、一般常識、面接指導、先輩の体験談 等々きめ細やかな指導を行う。

課題研究 A, B

【ねらい】

本学部学生の4年間の学修の結実ともなる卒業論文に該当するものが課題研究である。各々の学生が、子どもに関する興味、関心に従いテーマを設定し、それぞれの研究領域に従った方法により、じっくりと学習成果をまとめ上げる準備・作業を行う。

【特色】

長期にわたってゼミナール形式で各々の論文をまとめる。担当教員がそれぞれのテーマに対して適切なアドバイスを行い、完成度の高い論文にしていく。

【内容】

論文の内容は千差万別であるが、子ども学部を卒業した学生として誇れる内容の論文が数多く作成されている。